

## ○第6次総合基本計画基本構想（素案）に対する意見の概要と市の考え方

第6次総合基本計画基本構想（素案）について、意見の募集（パブリックコメント）を実施したところ、1名の方より3件の意見の提出がありました。つきましては、意見の概要と市の考え方について、以下のとおりお示しします。

番号	項目	意見の概要	市の考え方
1	計画の具体性について	「ひと、自然、歴史文化をはぐくみ、笑顔輝く はびきの」を目指すという謳われて、とてもよい目標だと思う。しかし、全編を通して具体性に欠ける。人口問題でも経済状況でも、全国的傾向の分析はあっても、羽曳野市について分析されているところはあまり見当たらない。例えば、「本市の資源を活かす」として、特産のブドウやイチジクをあげているが、それらの農産物を生産している農家は衰退の一途をたどっているのが現状ではないか。本気で資源として活用しようとするなら、衰退から発展に切り替えるための手立てを示すのが計画だと思う。地元の産業の発展、高齢化が進む中での福祉事業の拡充の方向性など、もっと具体的に打ち出す必要があるのではないか。	市の人口および経済状況については、7～8頁で現況を説明し、16～17 頁において総括と課題の一つとして取り上げています。また、その分析を受けて 21 頁では、今後の予測に対する目標人口を明確にしています。 さらに詳しい人口分析については、作成中の「羽曳野市人口ビジョン」の中で、長期的な人口予測・目標設定と併せてお示ししていく予定です。 基本構想においては、中長期的な市全体の基本的な方向性をお示ししており、ご指摘いただいたような各分野での手立てについては、基本計画の中で施策別にお示しする予定です。 さらに、総合基本計画を上位計画とした個別の事業計画に基づいて、具体的な施策を展開してまいります。
2	古市古墳群世界遺産登録の取り組みについて	古市古墳群を世界遺産として打ち出すのであれば、例えば、羽曳野市を訪れた観光客が古市駅に降り立ったとき、「来たぞ、古市古墳群の街に！」と思ってもらえるようになっていないか。駅前には案内の看板が一枚もない。観光案内所ぐらいいるのではないか。	百舌鳥・古市古墳群については、大阪府・堺市・藤井寺市とともに、世界文化遺産登録をめざした取り組みを進めているところです。 特に市の玄関口である古市駅周辺については、横断幕やパネルを掲示するとともに、ご指摘の観光案内所を東広場内に設置し、古墳や神社仏閣など歴史資源についての情報提供を行っております。 今後も来訪者への PR と市民の機運醸成を図るため、市内外への効果的な情報発信について、引き続き積極的に取り組んでまいります。
3	緑の保全について	羽曳が丘に住み出して 30 年以上になる。移り住んだ頃は、周辺に緑が沢山あった。今は、周辺に残っていた雑木林も多くが姿を消している。ため池も住宅地になってきている。かつての三木ゴルフ場跡地も、多くの地域住民が、子どもたちが活動できる広場として残してほしいと要望したにもかかわらず、グラウンドゴルフ場とピオトープがわずかに残されているだけであとは宅地になった。緑豊かな住宅地とは言えなくなってしまった。今かろうじて残っている羽曳が丘西 4 丁目の西側の谷間を、大雨が降ると避難警報が出されるため、埋め立ててしまおうという動きがあると聞く。防災対策は必要であるが、対策との交換で、さらに自然を減らしてしまうことのないようにしていただきたい。	大阪市の中心部から約 20km 圏内に位置する本市は、特に急速な人口増加が始まった昭和 30 年代以降、大阪都市圏のベッドタウンとして発展してきました。その中で、東部の山並みやぶどう畑、古墳や水田、石川など、緑と水辺に囲まれた自然豊かな環境は、大都市圏の近郊住宅都市としての本市の魅力の一つであると認識しています。今後もその魅力を損なわないよう、一方では移住・定住対策を推進しながらも、同時に自然環境の保全・育成にも取り組み、自然と調和した生活環境の確保をめざしてまいります。